

「生活家庭科作業学習」（1 学年）授業略案

単元・題材名	リサイクル／分別	生 徒	生活家庭科 1 年 8 名
		場 所	縫工室
日 時	平成 2 8 年 9 月 2 6 日（月） 5， 6 校時	指導者	T 1 木田 絢子、T 2 小林 和幸、T 3 青山 未帆
単元の全体目標	仲間と協力して回収、分別ができる。		
本時の目標	・ 目標とする量の処理を行うことができる。 ・ 話し合って効率よく作業を進めることができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 1 0 分	挨拶	○日直に続いて挨拶を行う。	○挨拶を行う。	作業日誌
	本時の確認	○作業内容、時間配分、処理する量の目標を確認する。	○作業内容、時間配分、処理する量の目標を説明する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 黒板に書かれている内容を見ながら説明する。（配慮⑩）	
	日誌記入	○日付、天気、作業内容、健康状態、個人目標を記入する。（竹内は日付、天気、作業内容、健康状態のみ） ○日誌記入後、T 1 に確認する。	○机間巡視を行う。 ○日誌を確認する。	
展開 6 5 分	担当の話し合い	○空き缶のグループ ： リングプル担当 1 名と潰し担当 2 名を話し合って決める。 ○新聞仕分けのグループ ： ペアと使用する机の場所を話し合って決める。	○話し合いをするよう伝える。（②） <協同学習の要素や配慮事項> ・ 分からないことがあった場合は教師に質問するように伝える。（配慮☆）	空き缶 缶つぶし 新聞紙 コンテナ
	分別	○缶潰しのグループ ： リングプルとシールを取り、缶を潰す。 ○新聞仕分けのグループ ： 新聞紙とチラシに分ける。	○缶つぶしのグループ ： リングプルとシールを取り、缶を潰すよう伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 相談したり協力したりしながら作業を進めることを確認する。（②④） ○新聞仕分けのグループ ： 新聞紙とチラシに分けるように伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 分類が分からない紙は仲間同士で確認し、どうしても分からないものは指導者に質問することを確認する。（②④）	

	清掃	○モップ、床拭きのグループと机・棚拭き、黒板、シンクのグループでそれぞれ担当を決める。 ○担当が決まったら教師に報告する。 ○片付け、清掃を行う。	○話し合いをするよう伝える。(②) <協同学習の要素や配慮事項> ・生徒主体で話し合いができるようできるだけ言葉かけや助言を控える。 ○担当を確認する。 ○片付け、清掃を行うよう伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・生徒同士で考えて行動できるようできるだけ言葉かけや助言を控える。 生徒同士だけで解決が難しそうなことがあった場合は清掃の状況を確認する。 (②③④)	モップ ほうき ちりとり ぞうきん バケツ 黒板消し
整理 25分	作業日誌記入 作業日誌提出 全体反省 挨拶	○本時の反省を記入する。 ○担当者に提出する。 ○全体反省を行う。 ○日直に続いて挨拶を行う。	○机間巡視を行う。 ○作業の様子や良かった点、課題等について伝える。 ○作業の様子や良かった点、課題等について伝える。 ○挨拶を行う。	

(凡例)「前時の復習…」～授業の流れの骨子、 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係 、 (②) … 対面的なやり取り 、 (③) … 個人としての責任
 (④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑪) … 配慮事項については、マニュアルP 8～10 参照。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

授業参観者アンケート

授業者：木田 絢子
協同学習（各要素）についての評価
①互恵的な相互依存関係
・目標を達成するために「何時までにこれくらいの量をやる」をいう小さな目標を立てられるとわかりやすかったと思います。
②対面的なやりとり
・缶潰しのグループは、効率良く作業するため、役割分担をどうすればよかったのかを活動の途中でもメンバー内で話し合いながら進めることができていました。 ・お互いが報告し合うことで次々と作業を行うことができていました。 ・グループ内で話し合いながらどうすれば早くできるかを考えさせながら授業を行っていたので良いと思います。 ・空き缶つぶしなど、流れ作業で行っていたが、一人の生徒の指示で作業するということが多かったように感じました。 ・ペアで分からないことを確認し合うことができていて良かったです。 ・缶つぶしのグループは、教師からの助言のあと、話し合いの時間を設けていたのが良かったです。 ・生徒同士で話し合う、教え合う場面があって良かったです。 ・担当を決める話し合いの場面で、全員が集まらないまま始まってしまっていました。グループ分けも二人で決めてしまい、他の生徒に伝えずに教師に伝えていました。日誌記入後にも、周りを見て、全体指導「グループで話し合うように」などの声かけが必要に感じました。 ・新聞の仕分けがわからないものは、仲間同士で確認をしていて良かったです。言葉遣いも適切でした。
③個人としての責任
・それぞれが与えられた役割を明確にし、作業に取り組むことができていました。 ・リーダー的な生徒がいなく、役割の割振りが曖昧でしたのであまり個人としての責任は作業ではなかったように思えます。清掃はそれなりにできていたので良かったと思います。 ・清掃の際など話し合いで役割の分担がなされていました。 ・その日の担当を生徒同士で話し合わせて決めていて、積極性や責任感につながり良いと思いました。
④協同学習スキル
・話し合いをするように生徒に促していましたが、生徒が動けなかったり、仲間の話を理解できていなかったりしていました。まだどう話せば良いか、どう行動すれば良いかが分かっていない生徒が多かったので、教師が言葉がけなどをして、例を提示しても良かったと思います。 ・教師がなるべく言葉がけをしないで生徒が自ら話し合いをさせる場を設定するのは、良いと思いました。しかし、生徒はどう話せば正解かが分からないと思いますので、生徒の行動に対しての評価をその都度しても良かったと思います。 ・「かくにんおねがいします」のカードは、協同学習（協同学習スキル・コミュニケーション）の基礎基本だと思う。まずは、その基礎基本ができてこそその協同学習につながっていくのだと思いました。また、どう質問して良いかわからない生徒や、質問にどうこたえて良いかわからない様子の生徒がいたので、どういう風に説明するのかわかるツールで基礎基本を身に付けてあげたら、今後、より発展した協同

学習につながると思いました。

- ・新しい作業をするときに「～やります」を報告があるので周りで誰かどの作業をしているのかわかりやすいと思います。
- ・作業の仕方が分からずに自分ルールで行っていた生徒がいたので、もっと他の仲間に自ら聞いてできるようになればいいと思います。特性で難しいかもしれませんが・・・。
- ・相手に自分の言いたいことをどうにか伝えようとする様子があり、一生懸命さが伝わってきました。
- ・遅れてきた生徒に対しての対応について生徒や教員でもっとフォローできると思いました。

⑤チームの振り返り

- ・⑤については、時間がなくてできなかったと思います。グループ内での話し合いや全体での話し合いのような時間があれば良かったと思います。

協同学習全体を通して

- ・周りにたくさんの先生方がいたせいか、いつもより声かけがなく、協力できていないのが残念でした。
- ・グループやペアで話し合う場面が何度もあり、良かったですが生徒が何を話し合ったら良いのかわかっていない生徒がいるように見えたので明確にするとわかりやすいと思いました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・生徒が自主的に動く姿が見られたので、普段の積み重ねが現状につながっていると思います。
- ・作業に取り組みにくそうにしている生徒がいたため、実態に合わせた形状の教材を使用するとより効果が高まると思いました。
- ・作業中に、グループで話し合った事などをメモする習慣をつけることで、話し合いの時間の短縮になるのではないかなと思いました。
- ・良いタイミングで生徒にアドバイスをしていたので良かったと思いました。
- ・潰した缶の箱が多くて、他の箱に移すよう指示をしましたが、どうすれば良いかという言葉がけをして、生徒自身やグループの仲間に答えを出させるようにすればもっと良かったと思います。
- ・机が高すぎて作業しづらそうにしていた生徒がいたので、コンテナを机に乗せずに、空のコンテナに重ねたりして高さを調節しても良かったと思います。
- ・黒板に書かれた目標（1番右のダンボールを終わらせる）でも生徒は分かるとは思いますが、1番右の段ボールの缶を全部潰すなどにしても良かったと思います。
- ・大きな声を出して行動している生徒が多くてすごいと思いました。
- ・時計を見ながら行動している生徒がいて、自主的に動いている様子で良かった。
- ・声が出ていて良かったです。
- ・日誌に目標を記入後、直接教師から言葉をかけていて良かったです。
- ・効率を良くするために方法を変えたのはとても良かったです。しかし、すぐに答えとなる方法を言っていたので、出ないかもしれないですが考えさせるのもアリだと思いました。
- ・板書はわかりやすく、見やすかったです。
- ・導入での指導は、声の大きさも適切でわかりやすく、生徒にとって理解しやすい内容でした。
- ・授業の前に生徒が、自主的に使用する道具の準備を進めていました。授業に対する生徒の取り組みに対する意欲の高さを見ることができました。
- ・生徒は落ち着いて授業に取り組んでいました。日常の指導を丁寧に行っていると感じた授業でした。
- ・教師の声かけですが、生徒が返答に困っているとき、もう少し待ってあげてもいいのかなと思いました。生

徒が考えている所に、次の言葉がくるので、生徒自身どう答えていいのかわからない様子がみられました

- ・最初の説明で作業時間と掃除の時間、反省の時間がどのくらいあるのかMTから説明あったため見通しをもって生徒が行動できていました。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	リサイクル・分別	生徒	生活家庭科 1 年生徒 8 名
		場所	縫工室
日時	平成 28 年 9 月 26 日 (月) 5, 6 校時	授業者	木田 絢子
普段生徒に対して「協力してやりましょう。」と言っているが、協同学習という意識をもって授業を組み立てることによって、生徒が協力して活動できるようにするためには、教師側がどのような枠組みを設けなければならないかを改めて考えることができた。考えることによって日々の活動の中にも協同学習として行える行動があることに気付くことができた。また、今回は作業学習で授業を考えたが、HR 活動のときなどそれ以外のときにも生徒が協同して行えることを意識して活動を考えることが多くなった。 今回の授業では、なるべく生徒達が話し合いをしながら考えて行動できるように教師からの言葉がけを必要最低限にとどめた。しかし、中にはその行動が正しいかどうか分らずにいる生徒が多かったため、そのとった行動が良いのか、悪いのか、悪いのであればどうすれば良いのかをその都度助言できれば良かった。 また、生徒が主体的に活動するためには、MT、ST がそれぞれどのように指導、支援するのかを共通理解することが大切であることも再確認することができた。話し合いについては、今まで教師主導で決めていた役割分担を、生徒が話し合って決めることによって、その役割に対する責任も増え、より積極的に取り組むことにつながると考えた。 今回は処理の目標をこちらで決めたが、今後、「来週中に終える」などの大まかな予定を教師が設定し、その間に終わらせるためにはどのようなペースで取り組まなければならないのかを生徒に考えさせるなどして生徒達が考えて行動できるようにしていきたい。			

2 学年 作業「紙すき・縫工」学習指導案

月 日	平成 28 年 11 月 28 日 (月)
場 所	作業室 2
時 間	10:35 ~ 12:15
対 象	2 学年
指導者	T1 能代 麻衣子 T2 出村 朱美 T3 藤倉 雄一

1 題材名 「販売会に向けて製品を作ろう」(紙すき、縫工)

2 生徒の実態

2 学年生活家庭科 6 名の生徒は IQ51～88 の間である。知的障害 3 名、自閉症 3 名となっている。この学級の生徒は、他者と適切なコミュニケーションを取るのが難しい生徒が多い。また、単独で行動することを好む傾向にある。学級では、話し合いや活動の際に一人の生徒に頼ってしまうことも多く自分から行動しようという生徒が少なかったが、2 学年では、先輩になったという意識や、自分から行動することの必要性を指導したところ、徐々に自分から行動しようという意識を持てるようになってきた。作業学習においては、非常に意欲的に取り組んでおり、以前は作業開始に遅れてきていた生徒も現在は開始前に準備を済ませることができるようになった。本学級の課題としては、コミュニケーション能力や生活力の欠如、経験不足があげられる。その原因として、語彙不足、経験不足があげられる。

3 題材について

本題材の「紙すき」は今年の 4 月から取り組んでいる。「紙すき」においては、1 学期に様々な作業種を体験したが、2 学期はほぼ固定した構成メンバーで学習をすすめている。紙すきの行程においては、流れ作業で行っているため、一人一人の責任の比率が重く、一人でも作業が止まってしまうと全体の動きが止まってしまう。そのためこの学習では、連携して一つの物を作っているということ、そして個人が責任を持って仕事をするという意識を育てたい。作業工程中におけるコミュニケーションやより良いものを作るために仲間同士での相談、確認、報告などの会話や雰囲気作りに重点を置いて取り組みたい。

「縫工」においては、トートバッグの作成を 2 人で行っている。一人は、吃音障害がありなかなか言葉で説明することが難しい。またもう一人は、確認や報告を忘れ単独で行動し、確認不足によるミスが続くことがある。この 2 人で一つの製品を作ることで、言葉で説明することの必要性を理解し、仲間との確認や声かけによって確認不足によるミスが軽減できるという意識を付けさせる中で、スムーズな声かけや会話などの基本的なコミュニケーションスキルを身に付けさせたい。

4 題材の全体目標

- ・雰囲気の良い職場作りのために、笑顔で元気よく作業に取り組むことができる。
- ・より良いものを作るために仲間と相談、確認、報告などの会話をすることができる。

5 指導計画

	日 時	学習内容	目 標
1	4、5、6、7月	「紙すきの基本を覚えよう」（紙すき） 「学校祭に向けて製品を作ろう」（縫工） 「清掃の基本を身に付けよう」（環境整備）	・紙すきの道具を覚え、正しく準備することができる。（紙すき） ・手順を見ながら、縫工製品を作ることができる。（縫工） ・清掃の基本を正しく身に付けることができる。（環境整備）
2	8、9、10、11月	「学校祭に向けて製品を作ろう」（紙すき、縫工） 「協力して清掃しよう」（環境整備）	・学校祭に向けて、仲間と協力して製品を作ることができる。（紙すき） ・仲間と相談しながら、縫工製品を作ることができる。（縫工） ・仲間と話し合い、役割分担をすることができる。（環境整備）
3	11、12、1、2、3月	「販売会に向けて製品を作ろう」（紙すき、縫工） 「仲間の動きを見ながら清掃しよう」（環境整備）	・仲間と相談しながら、紙すきを行うことができる。（紙すき） ・より高度な製品を作るために、どうすべきか考え、仲間と相談、協力しながら縫工製品を作ることができる。（縫工） ・仲間の動きを見ながら、効率よく清掃をすることができる。（環境整備）

6 本時の全体目標

- ・作業工程、作業内容について仲間と確認、相談、報告をしながら紙すき、縫工を行うことができる。
- ・仲間の動きを見ながら、効率よく清掃をすることができる。

7 本時の展開

（1）個別目標

	題材の目標	本活動に対する実態	本時の目標	手立て	評価
A	・手早く丁寧に作業をすることができる。 ・必要に応じて仲間、教師に相談や確認をしながら作業をすすめることができる。	・慎重に作業をすすめることが多い。 ・一人で作業をすすめてしまう。	・仲間と相談、確認、報告をすることができる。	・仲間に確認しなければならないような環境を設定する。	
B	・笑顔で明るく作業に取り組むことができる。 ・自信をもって確実に行える作業種を増やす。	・ローラーがけは得意だが、同じ失敗を繰り返すことがある。	・笑顔で元気に相談、確認、報告をすることができる。	・得意な作業を行い、自信を付けさせる。	
C	・仲間の動きを見ながら、作業に取り組むことができる。 ・準備や片付けを進んですることができる。	・自分のペースが乱れると、調子を崩し、悪態をつくことがある。	・ミキサーと計量を同時に行いながら、仲間の動きを見てミキサーに戻ることができる。	・動きが途切れないようなタイミングで言葉かけを行う。	
D	・注意されても、気持ちを切り替えて作業に取り組むことができる。 ・自分の担当だけでなく、周りの状況を見て、進んで清掃をすることができる。	・強めの注意をされると、思考が止まってしまう。 ・清掃が苦手で、ゴミ捨てや水捨てばかりを担当しようとする。	・ゴミや異物の混入を自分で確認し、やり直すことができる。	・確認の際、「自分ではどう思う？」と考えや判断した理由を話すよう促す。	

E	・自分の仕事を最後まで責任を持って取り組むことができる。	・作業の最中でも気になったことがあると他の作業を行ってしまうことがある。	・自分のやるべきことを理解し、やるべきことに責任を持って取り組む。	・作業前に役割、目標の確認を行う。気が逸れそうな時は言葉かけを行う。	
F	・必要に応じて仲間、教師に相談や確認をしながら作業をすすめることができる。	・言葉での説明が苦手、教える際も自分がやってあげてしまうことがある。	・仲間と確認しながら、作業を進めることができる。	・仲間に確認しなければならないような環境を設定する。	

(2) 協同学習の観点

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| ①「互恵的な相互依存関係」 | ②「対面的なやりとり」 | ③「個人としての責任」 |
| ④「協同学習スキル」 | ⑤「チームの振り返り」 | |

本時では、紙すきの一連の作業の中で協力して一つの物を作り上げているということを意識し、一人一人が責任を持って行うことで作業全体の流れがスムーズに行われることを理解させたい。また、縫工作業、紙すきの一連の作業においてもペアでの報告や確認を促すことで、互いに認め合い、相手の良いところを取り入れるなど、相互に高め合えるような関係性を築いていけるようにしたい。それに加えて、就労を見据え、自分で出来の良し悪しを選別できる判断力や決定力など、仲間と関わり合いながら学ぶことで、より良い判断ができるよう指導をしたい。そのため、判断に迷い、教師に確認があった際には、一緒に考え、どのように考えるべきかを導き、判断を促すようにしたい。そのため、教師はなるべく見守る形を取り、報告や確認の際はなるべく教師からの言葉かけを避け自発的な行動を促したい。それと共に、今後は就労を見越して自分たちでどうすべきか考え、行動し解決できるようにしたい。

(3) 本時の展開

過程 時間	学習 活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (授業前)	準備	○ 作業に入る前にペアで頭髮、衣服の乱れの点検を行う。 ○ 自分の担当を理解する。 ○ 担当に合わせて紙すき・縫工の準備を行う。 ○ 準備し忘れた物がないかペアで確認を行う。	○ 事前に、黒板に役割分担と授業の見通しを書いておく。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ペアで身だしなみの確認を行う。(②) ・作業の準備ができたかペアやグループで確認する (②③) ○ 準備の確認が済んだら、準備し忘れたものがないか確認するように指示する	

展開 1 10 : 15 ～ 11 : 35 80 分	紙 す き・縫 工 作 業	○ 準備ができた人から紙すき、縫工を始める。 ※すき枠の水切りが終わるまではラミネートはがしを行う。	○ 自分の役割や活動を理解しているかを問う。より良い製品を作るために責任を持って行うよう指示する。	・牛乳パック ・ダンボール ・デジタルはかり ・ミキサー ・キッチンタイマー ・紙すき枠 ・すき枠台 ・ローラー ・アクリル板 ・ネル布 ・プレス機	
		【紙すき】 ○ミキサーにパルプを入れてまわす。 ※ミキサーが回っている間に、計量を行う。 ○パルプが攪拌されたら、すき枠担当に声をかけ、すき枠にパルプを入れる。 ○すき枠にパルプが入ったら、手でかき混ぜる。 ○ゴミや異物が入っているか確認し、入っていないければ、教師に確認する。 ○すき枠の水切り場に置きローラー担当にローラーががけができることを伝える。 ※時間が経っていなければ、20 秒待つように伝える。 ○ローラー担当者は、水切りの時間が経っているかすき枠担当者に確認し、ローラーがけを行う。 ○すき枠を台に置き、ネル生地をかぶせて水を抜く。 ・1 枚目は置いて抜く ・2 枚目はローラーの重さを使って抜く。 ・3 枚目は力を入れてローラをかける。 ○水を抜ききったら、ローラーの担当どうしでゴミや異物がないかを確認する。 ※もし、自分で異物やし	【縫工】 ○試し縫いをする。 ○正しく縫えているかペアで確認する。 ○手順の確認をする。 ○役割分担を行う。 ○バッグの取手を縫う。 ○ポケットを縫う。 ○縫い終わったら、ペアでできを確認し、やり直すかを決める。 ○ポケット、取手の位置を確認し、マチ針で固定する。 ○取手、ポケットをつける。	<協同学習の要素や配慮事項> ・自分の役割を責任持って果たし、協力して紙、縫工製品を作る。(①) ・自分の役割に責任を持つ(③) ○ (縫) T2 は 0.3 cm で縫うことを告げる。 ○ (紙・縫) 確認を求められた際には、出来を確認し、やり直すように告げる。 ○ (紙) T1 もしくは T3 は異物の混入がないかを問われたら、確認を行う。 ○ (縫) T2 は 1 cm で縫うことを告げる。 ○ (紙) 水切りの時間が経っているか、互いに確認をしたかを問う。 ○ ペアでの確認を促す。 ○ 周りの状況を見て、自分がやるべきことを考えるように促す。 <協同学習の要素や配慮事項> ・できた紙、縫工製品を最初はペアで確認し合う。判断がつかない場合は、教師に確認する。(②③) ・判断に困った時は、はじめに同じペアや連携している仲間に声をかけアドバイスを求める。(④) ・ペアの仲間にアドバイスをする。またアドバイスを聞き入れる。(④) ○ (紙) 失敗した際は、どうして失敗したのかを考えさせ、次に失敗しな	・ミシン ・アイロン ・裁縫道具 ・生地

		わを発見しやり直しと判断した場合は、ペア、教師に確認せず、自己判断でやり直してもよい。 ○異物が無ければ、紙を置き、不織布をかける。 ○出来高のカウントを行う。 上記を繰り返す行う。		いための方法を一緒に考え、アドバイスする。 ○（紙）アクリル板をまっすぐ積み重ねるように伝える。 ○できた紙の枚数を確認する。 ○紙をプレス機に入れる。（T3）	
展開 2 (20 分)	清掃	○ 役割分担を話し合い、清掃を行う。 ○ ゴミが落ちていないか、確認し、床拭きを行う。 ○ 周りの仲間の掃除が終わったかを確認し、手を洗う。 ○ 洗濯が終わったかどうかを確認し、終わっていなければ、日誌を書く。 ○ ネル生地を干す。	○ 清掃時の約束を確認する。 ○ 清掃の合間に、洗濯機をまわす。 ○ 役割分担が、毎回同じにならないように注意する。 ・＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・清掃の役割分担が、早い者勝ちにならないようにする。（配慮事項⑦）	・洗濯機 ・物干し	
整理 (20 分)	まとめ・反省	○ 自己反省、ペアで反省を行う。 ○ 日直に号令に合わせて反省を行う。 ○ 次回の予定を知る。 ○ あいさつ	○ 日誌を書いた人から順に個人反省を行う。 ○ 今日を振り返って、良かったところと改善点を告げる。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ 全員が達成感を得られる褒め方を工夫する。（配慮事項④） ○ 次回の予告をする。 ○ あいさつ	・反省日誌	

9 評価

(1) 学習の評価

ア 本時の全体目標は達成されたか。

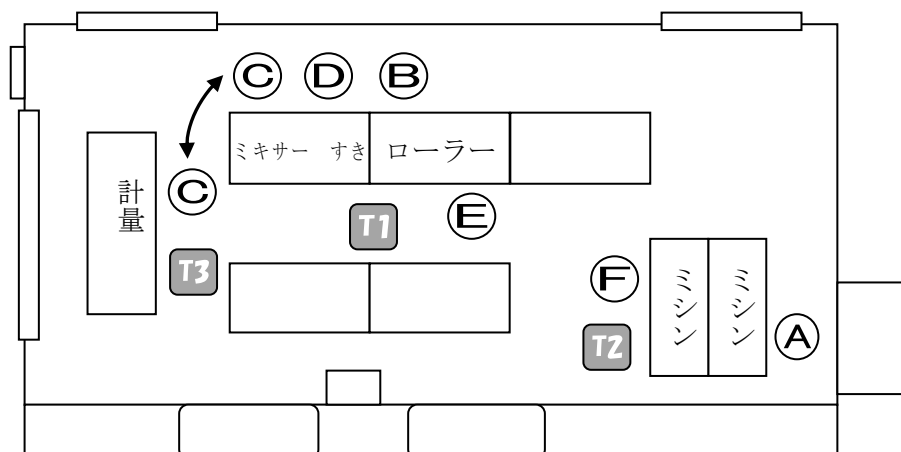
イ 個別目標の評価は達成されたか。

(2) 授業の評価

観 点			評 価			
授業 の 設 計	① 学習指導案に適切な内容が盛り込まれていたか。					
	② 目標・手立ては明確になっていたか。					
	③ 導入・展開・整理の流し方や、時間配分は適切であったか。					
	④ その他					
授業 の 展 開	① 生徒の学習に取り組む姿は自ら学ぶものになっていたか。					
	② 全体・個別に対する働きかけは適切であったか。					
	③ T T のあり方（役割の明確、位置等）は適切であったか。					
	④ 教材・教具は適切であったか。					
協 同 学 習	①	「互恵的な相互依存関係」	A	B	C	D
	②	「対面的なやりとり」	A	B	C	D
	③	「個人としての責任」	A	B	C	D
	④	「協同学習スキル」	A	B	C	D
	⑤	「チームの振り返り」	A	B	C	D

※A～よくできた B～おおむねできた C～少しだけできた D～十分ではない

10 配置図



授業参観者アンケート

授業者：能代 麻衣子

協同学習（各要素）についての評価

①互恵的な相互依存関係

- ・どのくらいの枚数を作るのかという「①互恵的な相互依存関係」の設定がなく、目標が曖昧になっているように感じました。

②対面的なやりとり

- ・確認をきちんと行うことができていました。
- ・ペアで確認作業ができていました。
- ・『②対面的なやりとり』について、製品の確認を自分だけでなく仲間と行うことにより、積極的にやりとりを行う機会が作られていると感じました。
- ・ペアでの確認作業を行っており、お互いを意識したやりとりがありました。
- ・掃除など声を掛け合っていて良かったです。
- ・紙すきのグループでは、すき枠担当2名がお互いにできた物を確認しながらやりとりを行っていました。しかし、途中からその確認作業が少し煩雑になってきているような様子も見られたので、何か一言言葉かけや確認の仕方などがあるとより分かりやすいように感じました。
- ・本人が困惑しているときに、ペアに先に相談するのではなく、そのまま教師に相談していることが多くあったため、ペアというまとまりにするには確認していく必要があるかと感じました。

③個人としての責任

- ・『③個人としての責任』では、全員が『①互恵的な相互依存関係』で設定された『自分の役割を責任持って果たし、協力して紙、縫工製品を作る』を達成するためにそれぞれが役割を果たしていました。
- ・個人に責任をもたせて作業に取り組むようになっていたのが参考になりました。
- ・自分自身の役割が明確であり、それを生徒自身が理解して働いている様子が見られました。普段の授業の積み重ねだと感じました。

④協同学習スキル

- ・自分の作業が終わったことをきちんと確認して、相手に伝えることができていました。
- ・今後の製品向上という点から考えたときに、教師も介入（言葉かけ）して、お互いに製品で競い合えるようになるとより良い方向に向かうのではないかと思います。（例えば、できた枚数を個別でカウントする・あえて隣同士で作業させるなど。）
- ・互いにサポートしながら作業を行っていて良かったです。
- ・作業終了時間の声かけで一斉に片付け始めていたことと「遅れます」と伝えることができていました。
- ・本時を通して、普段からの積み重ねもあり、報告については全員が行うことができていた。
- ・生徒自身に、「より良い製品を作るには。」「より多くの製品を作るには。」など、どうしたら良いのかを考えさせて取り組ませるともっと良くなるのではと感じた。
- ・協同学習の要素のうち、「④協同学習スキル」が具体的に明記されていて良かったです。

⑤チームの振り返り

協同学習全体を通して

- ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・T1T2の役割がはっきりしていて良かったです。
- ・水回りの片付け、道具の片付けを手洗いした後に「申し訳ないけど、きちんとやってください。」と指示していたのが良かったです。農業科1年生でも、しっかりさせたいと思いました。
- ・板書の指示、役割分担をマグネットにしてあったのが良かったです。
- ・紙すきでは、教師の確認があったが、縫工では生徒の確認のみだったのは、なぜでしょうか。
- ・障害の特性が強い生徒が多いですが、みんな落ち着いて作業に取り組むことができていました。
- ・清掃の徹底さが行き届いていました。普段の指導だと思いました。ミシンがけを集中して行っていました。さらに、作業が終わったら先生に報告し、次の指示を待つことができていました。
- ・パルプの準備ができているとき、ある生徒が立って待っていたとき、「こういうときは、どうするの？」と投げかけて生徒に気付かせる働きかけが良かったです。
- ・生徒が「ローラー班、掃除遅れます。」と他の生徒に話したときに、誰に呼びかけるのかを意識させて、言い直しをさせた対応が良かったです。
- ・目標が板書されないため、何を目指すのかが生徒にとっては不明確になっており、作業だけをする内容になっています。作業学習であっても、就労後を意識しても、授業である以上、当該時間での目標を明確化して指導することが指導の基本です。作業学習は単に作業をすることが作業学習ではありません。目標を意識して作業することが作業学習においても重要です。就労後の職場の状況を意識して授業する単元があることはあり得ますが、1年間継続してこのような授業を展開することは作業学習の進め方としては適切ではありません。
- ・すき枠にパルプを入れた状態で穴あきがあったとき、考えさせる場面がないことがありました。考えて気付く過程を作業学習でも大切にする必要があります。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	作業学習「紙すき・縫工」	生徒	生活家庭科 2 年 6 名
		場 所	作業室 2
日 時	平成 2 8 年 1 1 月 2 8 日 (月) 3、4 校時	授 業 者	能代 麻衣子
①協同学習の要素を取り入れた授業について ・「互恵的な相互依存関係」については、流れ作業の中で自分の役割を果たすということを生徒はできていたと思う。 ・「対面的なやりとり」では、縫工担当のペアとローラー担当のペアで互いに確認作業をすることができた。ただ、慣れてくるにつれ確認作業自体が煩雑になってしまうことがあるので、今後は、確認作業やゴミが入っていないかのチェックの大切さなどを教えながら進めていこうと思う。 ・「個人としての責任」では、流れ作業の中で自分がどのような役割にあるのかを意識できるような働きかけをもっとすべきだった。また、それぞれがと競うと言うより互いに高め合えるような言葉がけなどのスキルを教えていければと思う。 ・「協同学習スキル」では、判断に困っている生徒に対して答えをすぐに教えるのではなく、どういう判断をしたら良いのかを考えさせた。今後も、自分のことや周りのこと、仕事をする際にどういう風に判断していくべきかを積み重ねていければ良いと思う。 ・「チームとしての振り返り」は少し弱い授業だったように思える。全体で話し合う機会や、どうしたら紙をもっとたくさん作れるかななどの改善点を話し合うことで、今後につながっていくと思うので取り入れていきたい。 ②授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。 ・良かったところは、生徒それぞれがしっかりと役割を理解して作業できていた。1 学期から継続して取り組んできたことが身に付いたのではないかなと思う。生徒が考えて行動できるような言葉かけをするようにし、授業を進める上での共通理解をとして S T の先生にも協力してもらった。そのことで、考えて発言、行動する生徒が増えてきたように思える。 ・改善すべきところとしては、目標枚数などを提示して今後は受注を受けた紙の製作などを通して、納品日や目標枚数を提示するなどして自分たちで見通しをもった作業ができるように、学習を進めていきたい。また、より良い製品を作るにはどうしたら良いかななどを考えさせる時間を設定するなどしながら学習を進めていけるようにする。			

「生活家庭科作業学習」（３学年）指導略案

単元・題材名	紙すき 「長形３号封筒用紙すき」	生徒	６名（前提実習のため１名欠席）
		場所	作業室２
日時	平成２８年１１月２９日（火）５，６校時	指導者	ＭＴ：佐々木 真由美 ＳＴ：鈴木 貴史、出村 朱美
単元の全体目標	・仲間同士で声を掛け合い効率的に取り組むことができる。		
本時の目標	・目標枚数達成のために効率的に取り組むことができる。 ・手が空いたときに周りの様子を見て、自分からやることを探し取り組むことができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 ５分	始業の挨拶 本時の確認	○日直の号令で挨拶をする。 ○教師の話を聞く。	○本時の役割分担と目標枚数を確認する。 ○教師への報告のタイミングを確認する。 ○生徒同士で声を掛け合うこと、手が空いたときに自分でやることを探すことを説明する。 ○効率的な動き方について説明する。	黒板 ホワイトボード
展開 ７５分	紙すき 片付け 掃除	○紙すきを行う。 軽量、ミキサー 紙すき ローラー 封筒切り テープ貼り、完成 ○自分が使用した道具を片付ける。自分の片付けが終わったら、仲間の片付けを手伝う。 ○全員で掃除を行う。 ○ネル生地を干す。	○自分の役割を理解し協力して紙すきを行うよう指示をする。 ○時間終了前に声を掛け合うよう促す。 （ミキサー→紙すき） ○なるべくやり直しを自分で判断するように促し、判断が迷う場合は教師に相談させる。 （紙すき、ローラー） ○ローラーのペアで声を掛け合うよう促す。 ○封筒切り、テープ貼りは５枚毎に確認を行わせる。 ○手が空いたときに、周りの状況を見てやることを判断するよう促す。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・目標枚数達成のために協力する。 （①、②、③、配慮③、④、⑤、⑫） ・自分の役割に責任をもって行う。 （③） ・できた紙の判断に迷ったときは教師に確認する。（③） ○短時間で清掃が終わるよう担当を考えて選択するよう促す。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・片付けが終わったら自分が担当する清掃を周りに伝える。仲間にやってほしいことを伝える。（配慮⑦）	デジタル秤 お花紙 牛乳パック ミキサー タオル タイマー すき枠、机 すき枠台 ピンセット ローラー アクリル板 ネル生地 不織布 水stoff 洗濯機 洗濯物干し
整理 １０分	日誌記入 本時の反省 次時の確認 終業の挨拶	○日誌を記入し自己の反省を行う。 ○整理し反省を行う。 ○日直の号令で挨拶をする。	○本時の良かったところ、悪かったところを振り返る。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・スキルアップや次時につながるような褒め方をする。（配慮④）	作業日誌 ホワイトボード

(凡例)「前時の復習…」～授業の流れの骨子、 「〇互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係 、 (②) … 対面的なやり取り 、 (③) … 個人としての責任
(④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑪) … 配慮事項については、マニュアルP 8 ～ 1 0 参照。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

授業参観者アンケート

授業者：佐々木 真由美

協同学習（各要素）についての評価

①□互惠的な相互依存関係

- ・担当者が完成品の枚数を全員に伝え、目標の出来高を意識した活動となっていました。
- ・1つの製品が出来上がる過程が分担されていて、全員で一つのものを制作していると感じられる作業工程だったと感じました。

②対面的なやりとり

- ・仕事の受け渡しに必ず声で伝え、相手も必ず返事をしており、互いに確認できていました。
- ・各工程の中で、次の工程の人に「おねがいします」、「〇〇して下さい」などの声かけができていて作業中のコミュニケーションとしては十分だったと思いました。
- ・ペアで協力しながら作業を進めていました。その際に声かけを徹底されて、ペアだけではなく全体や教員に対してもできていました。
- ・どの作業も一人ではなく、ペアで進めていました。
- ・作業学習に必要とされる対面的なやりとりは、適切な報告ができたり、他者に対してお願いしたりすること、お礼をいうことができることであると思いますので、対面的なやりとりが十分にできている作業学習だったと思いました。
- ・生徒それぞれの作業になっていて、作業の仕方についてどのように改善していくか気付いたり、話し合ったりする場面が少しでもあるとよかったです。

③個人としての責任

- ・個人としての役割を果たし、自信を持って活動していました。ローラーのやり直しも自分で判断し、報告も自ら行っていました。
- ・一人一人が責任を持って分担された役割を果たしていました。
- ・自分の役割に責任を持って行っていました。
- ・導入でそれぞれのペアと役割分担を明確にし、さらにペアの中での確認を行っていました。
- ・一人一人が役割に対して責任を強く持ちながら学習していると感じました。

④□協同学習スキル

- ・協同学習の授業展開としては、協同学習の要素である「④協同学習スキル」がより具体的に明記されるとよかったです。
自分の役割が終わったら他の役割を手伝うなど、自分の役割ばかりではなく、次にどうすべきかを協同学習のスキルとして伝えていたと思いました。
- ・指導案にローラーのペアで声を掛け合うよう促すと書いていますが、黙々と作業に取り組んでいる印象がありました。生徒自らアクリル板が減っているのに気が付き、だしていたためその際に「アクリル板減しました」という声掛けなど、コミュニケーションをする機会を増やすようにしたら良いと思いました。
- ・基本ペアでの作業だが、手が空いたり、次の作業まで時間があつた時などは、他の作業を自然に手伝ったりしている様子が見られて良かったです。
- ・タイマーが鳴っていたらペア以外の人が教えてあげていたり、助け合って作業を進めたりしていました。

⑤チームの振り返り

- ・ 23枚封筒をつくることを目標として、全体で作った枚数について反省し、個人の工程の中で目標を達成するための動き方について反省できる点があってよかったと思いました。

協同学習全体を通して

- ・ 学習指導案に「協働学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。
- ・ ローラー組、ミキサー組、封筒切り組とそれぞれの役割に責任をもって作業をし、ペアの中で報告や確認を適宜行っていた。また、一定の個数が完成したら全体に報告して全体で把握していました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・ タイマーを持ち歩くことで時間を把握し、それぞれの工程の待ち時間に乾いた牛乳パックを片付けるなど、実践的な作業をしていたのが、印象的でした。
- ・ 授業前に出来る準備を事前に行っていました。
- ・ 確認を職員が行う時に、すぐに間違いを指摘するのではなく、間違いを生徒に考えさせる所が良かったです。
- ・ 普段から行っていて生徒も慣れている作業だと思うのでその中で、今回生徒個人にどのような目標、課題があったのかが分かりませんでした。
- ・ 無駄話がなく、良い雰囲気で作業を進めていました。
- ・ タオルの裏表を使って効率的に使用できていました。
- ・ 報告の方法も決まっていて、良かったです。
- ・ 作業室内で走っている生徒がいて、少し危険だと感じました。
- ・ タオルの脱水等の洗濯機を使う作業も生徒の仕事にしても良いと感じました。
- ・ 障害の特性がさまざま強い生徒がいる中、落ち着いて黙々と作業に取り組むことができていました。
- ・ 生徒が紙漉の枠を置く場所を間違えたときにすぐに ST が指示をしていましたが、生徒に考えさせた方が良かったと思います。指示をしなくても自分で気付くことができる力を育てることが大切であると思います。
- ・ ローラーの使い方や力の入れ方が生徒によって異なっていました。片手だけの生徒と両手を使ってローラーを掛ける生徒とそれぞれかけ方が異なっていました。その結果、製品の仕上がりにも影響が出ていましたが、特に指導はありませんでした。パルプは同じでも、その後どのような手順でどの程度の力でローラーを掛けるかで製品の質は差が出ますので、一定の規格に見合う作業にする必要があると思います。
- ・ パルプ入りの枠を取った後に、タオルを置いていましたが、置き方が雑でした。隅の方がよれていてもそのまま作業をしていました。細かいことですが、丁寧な作業が大切であると思います。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	作業・紙すき	生 徒	生活家庭科 3 年生徒 7 名
	「長形 3 号封筒用紙すき」	場 所	作業室 2
日 時	平成 2 8 年 1 1 月 2 9 日（火） 2、3 校時	授 業 者	佐々木 真由美
2 年生で「紙すき」を始めてから①互恵的な相互依存関係、②対面的なやり取り、③個人としての責任、④協同学習スキルの要素を少しずつ取り入れ授業を行ってきた。 ①については、どの工程も全員でできるように指導してきたことで、誰がどの工程を担当してもクラス全体で取り組んでいる意識を持たせることができた。また、出来高を 5 枚毎に全体に伝えるようにしたことで、目標枚数への見通しを持って取り組むことができるようになった。 ②については、次の工程の担当に「お願いします」「ありがとうございます」など必ず声をかける、何も言わないで手伝うのではなく手伝ったことを必ず伝える、道具を出す、追加するなどしたことをペアや周りの仲間に伝えるを指導したことで、生徒同士のやり取りが多くなっていった。 ③については、流れ作業である紙すきはどこかの工程が滞ると全体の流れが止まってしまう出来高が少なくなること、他の工程担当の生徒に迷惑をかけること指導をしてきたことで、責任を持って取り組む気持ちが徐々についてきた。 ④協同学習スキルについては、ミキサーの待ち時間、水切りの待ち時間に周りの様子を見て自分からやることを探し取り組むことや 1 枚の紙にかける時間を少なくするためにタイマーを持ち歩き、鳴る前に次の工程の人に準備をする声かけをする、やってほしいことを手が空いている人に積極的に伝えるなどを取り入れながら授業をすることで、出来高も増えるようになり、また教師に何でも聞くのではなく自分達で助け合い協力して取り組む気持ちが身についてよかった。 指導者が指示を出さなくても自分達で進められる作業を目標としているが、協同学習の要素を取り入れることで、徐々に自分達で準備→作業→片付け→掃除を自分達だけで考えて声を掛け合い協力して進められるようになってきている。個人の目標について、始業時に確認をして取り組ませるとより、スキルアップにつながると思うので取り入れていきたい。			

作業学習（生活家庭科）

協同①ー「互恵的な相互依存関係」

「クラス（班）の全員が課題をクリアする。」、「班で各自が自分の役割を果たし、協力して壁新聞を作る。」など、目標、活動、教材、役割分担、評価や成果（例えばでき上がった作品・製品の他、賞状、達成のご褒美シールなど）などについて互いに協力を必要とするような関係を具体的に書いてください。

- ・紙すき作業で、作業がスムーズに流れるように各自の役割と気を付けることを明確にして、製品を生産する。
- ・除雪の作業で、除雪する場所と除雪を終える時間を明確にし、目標を立てる。雪山を崩す人、ソリに乗せる人など役割分担をして行う。
- ・封筒作りの際に、流れ作業で行い、作業が止まらないように声を掛け合い協力して手際よく行うことができる。また、一人一人の、能力に合わせた出来高の目標を立てる。

協同②ー「対面的なやりとり」

仲間同士、援助したり、教え合ったり、議論したり、励ましたり、誉めたりし合うことで生徒がお互いの（学習の）成功を促進し合う機会を授業場面で設定してください。

- ・ペアで清掃活動に取り組む前に、掃除の方法について、話し合い助言し合って、より適切な方法を確認し合う。
- ・石けん作りの際に、ペアでタイムを計る人と振る人に分かれて行う。また、どうしたら効率よく作成できるのか適切な方法を話し合う。
- ・紙すき作業の際に、ローラーがけの担当者の2人でお互いに出来を確認する。また、できが良ければ、誉め合ったり、どうすればうまくローラーがけができるのか、お互いに助言し合ったりする。
- ・縫工作業の際に、ペアで作成手順を確認しながら行う。また、縫工作業が得意な生徒から、他の人へ教える。

協同③ー「個人としての責任」

生徒一人一人には個人の責任があり、自分のやるべき役割を果たして個人目標に到達できるように、一人一人の活動や役割を設定して書いてください。

- ・公宅回収で安全かつ効率的に個人目標に到達できるように各自の果たすべき役割を一人1係で明確にする。
- ・紙すきの作業で、自分の役割を理解し責任を持って行うことで仲間と一つの物を作り上げているということを明確にする。
- ・ステンシル布巾製作などは、自分が失敗すると出来高が減ってしまうこと、仲間の頑張りが無駄になってしまうことを伝え、自分の役割の重要性を明確に知る。
- ・作業内容の説明を求められた際に、自分の役割や仕事について説明することができる。

協同④ー「協同学習スキル」（考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル）

より質の高い協力と学習ができるように、授業で指導する社会的スキルと教科固有のスキルを書いてください。

- ・話し合いのときには、相手に分かりやすいように絵などを描いたり、手本を見せたりする。
- ・清掃活動の際に、相手の役割分担と自分の役割分担を話し合って決めることができる。（コミュニケーションスキル）
- ・紙すきのローラーがけの際にペアの相手の出来について評価する。また、評価された側は相手の評価を受け入れて、やり直すことができる。（集団活動スキル）
- ・評価者が相手の退場になって考え不愉快な思いをさせない、よりよい伝え方のスキルを高めることができる。（コミュニケーションスキル）
- ・縫工作業で、作業工程に従って次の作業は何をするべきかを仲間と相談、連絡し、教師に確認を取ることができる。（コミュニケーションスキル）
- ・失敗したときやみんなに迷惑をかけてしまったときには、素直に謝ることができる。また、失敗した人を許すことができる。（集団活動スキル）

同⑤ー「チームの振り返り」

どのように援助し合ったり、協力し合ったりしたらチームがうまくいったのかについて、書いてください。

- ・どのような作業手順で、誰がどの役割を分担すると、効率的に作業できるのかについて、チームごとに振り返る。その次のステップとして、個々の課題を明確にして役割を交代して取り組み、どのようなことに気をつけると、精度の高い製品が作れるのか振り返る。
- ・どのような言い方や話し方をすると相手に伝わりやすいのかを振り返る。
- ・反省日誌で、ペアと一緒に反省する項目を作りペアで話し合い、より良い製品を作るための振り返りを行う。

成果と課題

- ・生活家庭科の作業においては、流れ作業や、グループで一つの物を作り上げている協同学習を取り入れた題材が多くある。しかし、一人で集中して封筒作りを行ったり、紙すきの下準備でラミネートはがしを行ったり、個人の責任で行う学習も多数ある。
- ・生徒が仲間と相談したり、声を掛け合ったりするような姿が見られるようになってきた。
- ・話し合いや相談など、教師の言葉かけがなくても日常的に仲間と話し合う姿が徐々に見られるようになった。
- ・生活家庭科では、話し合い活動を行う前の段階として事前の学習や積み重ねも必要である。

解決策（解決策の方向性）

- ・両方の学習の効果を高めていくために、今後も協同学習の要素と実態に応じた個別の課題をバランスよく配置し、授業づくりや学習環境の設定を行っていく。
- ・今まで行ってきた学習であっても、教員自身が意識して協同学習を取り入れていく必要がある。